

善年

年頭所感

理事長 梶浦 一郎

第 2 号

発行所

大阪市東住吉区山坂5丁目
11番21号 TEL 06-699-8731

社会福祉法人

愛徳福祉会



新年おめでとうござ
います。昨年中は本園
あさしお園、ゆうなぎ
園の皆さんには、それ
ぞれの部所において、
いろいろと頑張ってい
ただき、本当にご苦労
さまでした。お礼を申
し上げます。やはり毎
年のことながらお正月は清々しく、又今年の事を
考え身のひきしまる時であります。

さて、昨年の正月に皆さんの前で、「社会情勢と
将来」について述べました。その中で殆んど云い
つくしておきますので本年あらためて同じ事を云
う心算はありません。

しかし、私達の園をとりまく情勢は更に一段と
厳しさを増していると言わざるを得ません。遂に
国鉄は解体され、円高不況の為、大型産業の閉鎖
が相つぎ、医療界においては、医療改革の第一弾
として老健法が成立致しました。これは一見小児
には関係がないように思われるかも知れませんが、
医療機関としての園にも多かれ、少かれ影響して

の海をはかつて参ります。
今や医療機関は公私の別なく、生き残り戦略が
最大の課題でありま。3、5年後に生き残った
病院(益々)今の2、3位になつてゐるには驚か
くもたうと云われております。生き残れる条件と
は質の高い医療、患者の多く集まる病院、病室の利
用率の高い病院であります。福祉においても同じ
く利用者負担の増大などが強力に導入されて参り
ます。つまり医療、福祉を問わず社会から、或は利
用者から選択され、淘汰される時代であります。
このことは、「公的責任」という大義名分のもとに
甘い体質の運営は、今後世間から許されないと
を示しています。

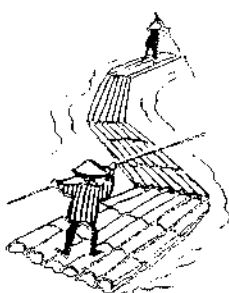
かつて、3区といわれた園鉄は民間に移行が決
まり、健康には抑制の嵐が吹き、恐らく次に来て
しょうが、このように行政改革が進んでいます。
これに対し反対を叫ぶのは簡単ですが、それだけ
ではこの大きな流れを止めることは出来ません。
これが大多数国民の選んだ流れですから、施設を
のものが呑みこまれてしまふでしょう。

この園の事を考えてみましょう。先程申しまし
たように生き残れる条件としての、質の高い医療、

参ります。脳卒中
においては医療と
してのリハビリがいつ
まで必要なのか、
入院費のうちの生
活部門(食費など)
の自己負担、外泊
が月に4、5回を
超えるものは入院
が必要ないものと
して入院料をカッ
トするなどです。
つまり医療費を抑
制することが先決
で、ありとあらゆる
手段で医療機関

患者の多く集まる医療を果すことが先決でありま
す。幸いこの園では、高度なボバース法の技術が
あり、過去の実績と信用、そして府下に拡がるネ
ットワークをもっています。これをフルに活用し、
今後更に拡げて行けば十分成り立つていく事が出
来ます。

昨年、正月に各部に課題を出しました。そのあ
と各部を廻って協力をお願いしましたが、昨年は
それが十分にご理解して頂ける素地がなかったこ
ともあって、本年度に入つて今日まで本園の利用
者数は収容、外來共に相当減少を生じていますこ
とは、本園の皆さんはお気づきのことと存じます。
その為、従来毎年収支の均衡を保つて参りました
本園の決算も一〇〇〇万円を超える赤字が生じ
ます。この赤字を出さないように、何としても私
達は一層努力しなければなりません。もちろん私
達管理者の責任の大きなことは痛感しております
が、この状態が今後も続くようならば、重大な事
になることも十分考えておかなければなりません。
もう一度、昨年の年頭所感と「葦」での所感を
よく読み返してみて下さい。残念ながら先程申し
ましたように、その中で申した厳しさはその通り
進んでおります。今年こそは、自分の目で社会の
動き、園の実情を見つめ流れにとり残されること
のないよう、明るく和やかな職場、自由に物の言
える職場、活気に溢れる職場、そして子供達、皆
に喜んでもらえる療育の場を作ることが大切です。
今年の始めに当りまして、この事を是非皆さんに
お願いして挨拶を終わりたいと思ひます。



▼園内研修会▲

恒例の園内研修会が次の通り開催されました。

第七回 昭和61年8月9日9時～12時30分

場所 本園大訓練室

テーマ 神経発達学的治療アプローチ（ボバース法）の基礎を学ぶ

プログラム

①・ボバースアプローチの紹介

・当園の歴史と療育方針の確認

②脳性麻痺の問題のとらえ方と、それから発した各部署の役割について

理事 梶浦 一郎

③脳性麻痺のタイプと、取り扱いの原則について

訓練部 岸本光夫

④脳性麻痺の取り扱い（ハンドリング）の実際

訓練部 関東佐智子

訓練部 彦田龍兵

第八回

日時 昭和61年12月27日9時～12時30分

場所 本園大訓練室

テーマ アテトゼ型脳性麻痺児プログラム

①アテトゼ型脳性麻痺児の手術について

医 局 佐々木哲

②アテトゼ型脳性麻痺児の言語治療について

あさしお園 ST 吉田くすほみ

③中度痙直型アテトゼ児のADL介助法

北病棟 看護婦 文 正子

④思春期におけるコミュニケーションのとれない女兒に対する援助

二階病棟 看護婦 渡辺真由美



園内行事

収容部

7月7日 七夕と誕生会

19日 買物ごっこ

26日 長居プール

8月8日 夏まつり

29日 キャンプと誕生会

9月23日 長居公園にて写生会

26日 誕生会

10月4日 運動会

18日 須磨離宮公園へ秋の遠足

24日 誕生会

11月21日 誕生会

12月8日 餅つき

20日 クリスマス会

25日 クリスマス会（サンタのプレゼント）

25日 誕生会

8月4日 長居プール

9月23日 父親講座・障害児をもつ父親の役割について

10月2日 枚方パークへ秋の遠足

10月10日 長居スポーツセンターにて運動会

16日 秋まつり・バザー

12月25日 おたのしみ会・クリスマス会

あさしお園

7月26日 夏まつり

8月23日 24日 キャンプ

9月1日 避難訓練

7日 保育父親参観

10月23日 保育父親参観

10月23日 運動会

12月7日 秋の遠足 いもほり

12月23日 生活発表会

12月24日 クリスマス会

5月23日 服部緑地へ遠足

ゆうなぎ園

6月29日 日曜参観
7月12日 13日 キャンプ
9月1日 避難訓練
10月18日 運動会

31日 秋の遠足 みかん狩りといもほり
11月9日 日曜参観
12月10日 11日 国際ロータリークラブの招待
12月18日 白浜へ泊旅行

18日 クリスマス会

「白浜一泊旅行に参加」
（国際ロータリークラブの招待で）

ゆうなぎ園

12月10日 11日

対象 四・五歳児14名・職員 10名

日程 一日目 十六時すぎ 川久ホテル着

二日目 九時・観光バスで・ワールド・サファリーへ

この度はじめての参加、その上、母付添いなしで職員は緊張の連続でした。そんな心配もよそに、子どもたちは元気一杯、見るもの触れるもの珍らしく楽しい時を過ごしたようです。ある子は帰宅後も興奮がさめず、とめどなく話したとか。



プロ野球選手競技大会

に招待される

昭和61年12月4日午後6時より大阪城ホールにてプロ野球選手競技大会が行われ、主催の読売テレビより招待を受けた。二階病棟入園児

4名と付添い職員4名が参加し、12球団有名選手による競技に堪能していた。この模様は昭和62年1月2日午後2時より読売テレビ系にて全国放送された。



もちつき大会

昨年12月8日(月)に行われたもちつき大会は例年の寒さから考えると、本当にお天気の良い暖かい日に恵まれ、中庭で盛大に開かれました。北病棟と二階病棟の入園児67名で下は幼児さんからは高校生で七臼(20kg)をつき、つきあがったお餅は次から次へと山坂婦人会の方々や栄養士さん達の手で、きなこや



あんで飾られました。「1人2個まで」の約束も多くは破られた様で、「おいしかった」ことを数が現わしていました。

子供達がひとりずつ杵を持ちお餅をつけるように、まず入浴日を避け訓練と学校の時間調整を行いました。青年会議所の方々にも最初の大変な段階をがんばって頂き、子供達の記念写真も撮ることができました。

最近ではあまり見かけなくなつたおもちつきだけに、園生活の行事の中で子供達が季節を感じ、またそれらの経験を生かしてがんばってくれることを願っています。

学会発表

本園看護部

◇ 中部近畿ブロック肢体不自由児施設医療部会
昭和61年11月27日～28日

石川整肢学園(石川県)

○ 発語障害をもつアトピー型脳性麻痺児へのはたらきかけ(シンボルを通してコミュニケーションを深める)

佐藤景子

◇ 全国肢体不自由児療育研究大会

昭和61年10月16日～17日

旭川療育園(岡山県)

○ アトピー型脳性麻痺児の食事指導
中川浩美

日本看護協会大阪府支部主催の講習会に左記の通り参加させた。

7月28日～8月1日

実習指導コース
釜島美智代

10月20日～10月24日

リーダーコース
谷川 定子

11月4日～11月5日

小児看護コース
富永ちどり

11月19日～11月21日

救急看護コース
寺下 静枝

本園訓練部

昭和61年11月22日～23日

第6回近畿作業療法士学会(和歌山市)

演題: 痙直型両麻痺児に対するアクティビティの治療的応用
岩城晴美、渡辺薫

あさしお園

全国肢体不自由児療育研究大会

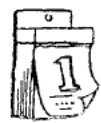
(S・61・10・16～17)

演題「当園における両親教室の取り組みについて」
保母 泉まゆみ

ゆうなぎ園

第34回盲ろうあ難聴幼児施設全国大会

演題「通園施設における母親指導について」
指導員 大垣奈々恵



ボバース講習会に参加して

訓練部 寺沢 健



ロンドンのボバース講習会は年4回開かれ、私は秋のコースに参加することができました。(9月21日～11月28日)

ボバースセンターはロンドンの中心、チャ

ーリングクロス駅から地下鉄で約30分のところにあり、一見、アパートと間違えうほどの小さな病院です。受講生は22名で、イギリス10アメリカ2、ドイツ5、日本、イタリア、スペイン、ギリシャ、インド各1で男性は3人でした。
ボバース夫妻も講習会に姿を見せ、Mrボバースは少し健康を害されていました。Mrsボバースはとても元気で、講義のわかりやすさには感心しました。

講習会全体としては特にめ新しいものはありませんでしたが、本場のロンドンで勉強できた経験は今後、自分の仕事に生かしてゆくつもりです。

臨床実習生の受入れ

訓練部

- 昭和61年8月25日～10月18日 国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院 作業療法学科生 1名
- 藍野医療技術専門学校 作業療法学科生 1名



- 昭和61年9月1日～10月24日 専門学校 社会医学技術学院 理学療法学科生 1名
 - 国立呉病院附属リハビリテーション学院 理学療法学科生 1名
 - 専門学校 愛知医療学院 理学療法学科生 1名
 - 京都大学医療技術短期大学部 理学療法学科生 1名
- 昭和61年10月27日～12月20日

- 京都大学医療技術短期大学部 作業療法学科生 1名
- 国立呉病院附属リハビリテーション学院 作業療法学科生 1名

看護部

- 昭和61年9月15日～11月7日 浅香山病院附属看護専門学校 3年生 9名
- 昭和61年11月4日～12月21日 大阪府立看護短期大学 第二看護科 14名

通園部

- 昭和61年7月22日～8月1日 大阪保育学院 2回生 2名
- 昭和61年8月19日～8月29日 浪速短期大学 2部2回生 2名

歯科

- 昭和61年6月30日～7月18日 大阪産業大学附属歯科衛生士学院 3名
 - 昭和61年9月1日～9月30日 1名
 - " 11月4日～11月28日 2名
 - " 12月1日～12月25日 1名
 - " 10月2日～10月13日 4名
 - " 10月14日～10月22日 3名
 - " 10月23日～10月31日 4名
- 学校法人行岡保健衛生学園
行岡医学技術専門学校

○ 実習目的

小児及び障害児歯科診療の實際を理解し、講義や基礎実習で学んだ知識や手技の応用についての要領を会得し障害児の理解に基いた子供の取り扱いによる楽な虫歯予防の方法を学び、もつ家庭のより楽な虫歯予防の方法を学び、障害児にかかわる歯科衛生士としての業務を遂行するに必要な技能を習得する。

ありがとうございました

皆様方の善意を心からお礼申し上げます。今後共よろしくご支援の程お願いいたします。

善意の贈呈者芳名(敬称略)

本園

61年7月8日 毛 布

3枚 通園バラ組

8月1日 女子ショーツ

50枚 楠田 豊

8月11日 遊具一式

日本生命財団

8月20日 トランポリン 1台

社会福祉法人大阪府肢体不自由者協会、今村課長

9月3日 洗剤等数種 6箱 大阪花王販売

9月8日 ナイロンシュート

各1箱

9月26日 味噌、漬物

味噌、漬物 各2箱 朝日光製作所鈴木常晴

10月3日 いわし 大阪漬物・味噌協会 6箱

10月8日 バザー用品 大阪市東部水産物卸協同組合 多数

10月13日 ソックス 委員長 松永貴裕 116足

10月13日 バザー用品 池本 厚 多数

11月9日 各種菓子 南田辺民生委員会 25個

11月28日 温州みかん 大阪葉業青年クラブ 1箱

12月9日 クリスマスツリー 1式 稀垣節造

12月17日 株式会社日光製作所鈴木常晴 各8箱

12月17日 函書 キリンビール 6箱

12月18日 洗剤等 NDK厚生文化事業団 各種

12月16日 みかん 大阪花王販売 5箱

12月2月 各種菓子 大阪本場青葉卸売協同組合 1箱

12月22日 梅田地下センター商店街振興組合 1箱

12月23日 みかん 大阪市民生局 2箱

12月23日 鮭 2箱

12月23日 菓子詰合せ 黒門市場商店街振興組合 130人分

川村義肢 1箱

12月24日 クリスマス菓子 1箱 泉大津市役所児童課

7月5日 金一封 青木久一 財団法人皓養社

8月8日 理事長 中納久昭 南田辺民生委員会

10月4日 通園部親の会

10月10日 宗教法人救世軍泉尾 大隊 黒江朝子

10月16日 篤志家

10月27日 入園児保護者会

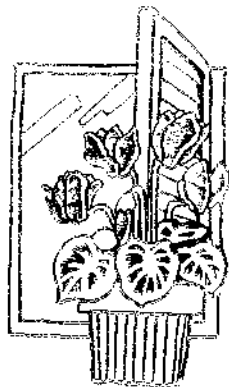
12月1日 南田辺民生委員会

12月11日 廣江惺朗

12月18日 青木久一

12月19日 新聞厚生文化事業団

12月26日 親の会から「秋まつり」の純益で園児達の遊具室内ブランコ、おすもう用マットと訓練用の玩具を購入いたしました。



あさしお園

昭和61年
 8月23日 金一封 港ロータリークラブ
 8月25日 " " あさしお園父母の会
 10月23日 " " "

昭和61年

11月27日 菓子 多数
 12月2日 菓子 大阪菓業青年クラブ
 51セット
 梅田地下センター

12月12日・15日・16日 石けん・タオル他多数
 匿名

12月12日 樹木 4本
 三和銀行みどり基金

12月16日 キリンレモン 6箱
 キリンシイグラム

12月18日 みかん 2箱
 大阪本場青果卸売協同組合

12月18日 画用紙・ボールペン他
 港ロータリークラブ 中村幸盛

12月21日 クリスマスショートケーキ 70個
 後藤商店様

12月23日 木工手造 おもちや 人形
 浪速区シルバーボランティア

ゆうなぎ園

昭和61年
 10月14日 エレクトーン 1台

11月27日 菓子 多数
 大阪大村越和子
 大阪菓業青年クラブ

12月2日 菓子 30セット
 梅田地下センター

12月15日 石けん・シャンプー 多数
 匿名

12月16日 キリン・オレンジ 2箱
 レモン 2箱
 キリンビール(株)

12月18日 みかん 2箱
 大阪本場青果卸売協同組合

12月18日 文具 多数
 港ロータリークラブ中村幸盛

12月22日 クリスマスケーキ 35個
 後藤商店様

12月23日 手作りおもちや・ぞうきん 多数
 浪速区シルバーボランティア

当園で開催した講習会

講習会

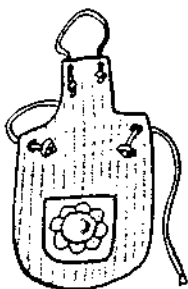
▽昭和61年7月7日(19日)
 日本作業療法士協会長期講習会「発達障害児に対する治療アプローチ・食事指導を中心として」及び「リフレクシャヤー・コース」受講生・日本作業療法士協会各20名、講師・今川忠男

▽昭和61年8月25日(30日)
 日本理学療法士協会長期講習会「脳性まひ児の評価と理学療法の実際」受講生・日本理学療法士協会各20名、講師・今川忠男他4名

ボランティアとして

お手伝い頂いた方々

現在本園では次の方々が定期的にご奉仕下さっており、大変喜ばれております。
 ◆川口芳子さんは、旧聖母整肢園から引続き現在に至るまで、毎水曜日の午前九時から十一時まで、北病棟の、シーツ交換のボランティアとして、長期にわたって奉仕して頂いています。
 ◆中学・高校生の勉学の指導を茂原俊雄さんに週三回来園して頂いています。
 ◆洗濯場のお手伝いに月二回、山坂五丁東町会婦人部より、長谷川照子さん、上井光子さん、森田フミさんに来て頂いております。
 ◆鶴ヶ丘駅構内のバギー置場の清掃に月一回南田辺地区民生(児童委員)協議会婦人部の岩崎叡子さんほか六名の方々にご奉仕頂いております。



自衛消防訓練の実施

昭和61年度第2回の自衛消防訓練が去る10月27日午後2時から本園において実施されました。

東住吉消防署の2名の係官が指導のため来園、丸山事務次長の指揮により放水訓練、避難訓練、消防本部への火災通報訓練が真剣に行われました。終了後井上消防司令補から火災時における適切な指導を受け意義のある訓練を無事終りました。

大阪三施設親善

ソフトボール大会

昭和61年8月30日に行われたこの大会も、回を重ねて今年で10回目向え、三施設にとっては恒例の行事になっている。

今回は、大手前整肢学園の当番で行われ、10年間続いたことを祝い、試合終了後、同園会議室にて細やかな懇親会が持たれ、参加者及び三施設全職員の今後の活躍を祈りエール交換をし、お開きとなった。

南大阪療育園 16:15 大手前整肢学園
大阪整肢学院 15:14 " (2敗)

" (2勝) 7:13 南大阪療育園(1勝1敗)

(大阪整肢学院は2年連続4回目の優勝)

職員慰安会

昭和61年度の職員慰安会は、4回に分け次のとおり食事が行われた。

◎11月7日 湖月(南区鰻谷)

あさしお園・ゆうなぎ園より33名参加。

◎11月8日 アルザス(東住吉区東川辺)

南大阪療育園より24名参加。

◎11月9日 柳茶屋(奈良・猿沢の池)

南大阪療育園より39名参加。

◎11月30日 錦(京都・嵐山)

南大阪療育園より50名参加。



編集後記

なんらかの会合で、初対面の人と名刺の交換をすると、福祉業界以外の人から「大変なお仕事をしておられるんですね」と云われ、尊敬ともつかない言葉で、労われることがある。また福祉施設は「温室に、つかっているようなもので、お上(国・地方自治体)が、一切の面倒をみてくれるから、倒産がありませんね」という手厳しい批判を受けることもある。然し、現実には、昭和57年以降の福祉予算抑制の強い影響をうけて、福祉のあらゆる現場では、必死になってサービスの低下を招かないように努力しているのであるが、この苦しいときにこそ、職員の一人一人が創意と工夫によって民間の知恵と活力を出してゆきたいものである。

「葦」第二号の巻頭に、梶浦理事長の年頭所感を転載させて頂きましたが、次号は、大下園長に巻頭を飾って頂く予定です。

事務長

